

講座名（専門科目名）	病院臨床検査学	教授氏名	准教授 日高 洋
学生への指導方針	小さくても常に世界の最先端に位置するような研究に取り組みさせる		
学生に対する要望	積極的かつ自主的に研究に取り組んでもらいたい		
問 合 せ 先	(Tel) 06-6879-6636 (Email)hidaka@hp-lab.med.osaka-u.ac.jp	担 当 者	日高 洋
その他出願にあたっての注意事項等	特になし		

(以下教室紹介)

当教室は大阪大学医学部附属病院臨床検査部のスタッフと密接な関係があり、研究内容も新しい疾患概念の提唱とそれに伴う新たな臨床検査の開発に重点を置いている。また、伝統的に甲状腺疾患に関する研究で世界をリードしてきた実績がある。

甲状腺疾患にはバセドウ病・橋本病のような自己免疫疾患があるが、これらの病気の発生機序の解明や新たな診断法の開発に取り組んでいる。この過程で花粉症などのアレルギーがバセドウ病の発症に深く関わっていることを世界で初めて報告した。

また、癌という病気は転移能・浸潤能を持たない正常細胞が、トランスフォーメーションにより悪性化して発生するとする多段階発癌説が広く信じられてきたが、甲状腺癌の分子のエビデンスに基づいてこの説が誤りであることを指摘し、これに代わる発癌理論として癌細胞が元々転移能・浸潤能に相当する移動能を保持した臓器発生初期に存在する胎児性細胞から直接発生するとする芽細胞発癌説を世界で初めて提唱した。この理論の正当性はその後癌幹細胞が相次いで発見されることで実証されるようになってきている。

従来 of 癌の解析は組織標本を丸ごと見ていたが、芽細胞発癌説に従うと癌をコントロールしているのは少数の低分化・未分化な細胞成分であり、それらの細胞を検出・同定することが将来の癌の臨床検査の基幹技術となることが予測される。現在、独自に開発した FACS-mQ という新しい解析法を使って、組織を細胞レベルまで分離して解析する臨床検査法の開発に取り組んでいる。